

令和3年度

# 第1学年 技術・家庭科指導計画表

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時数
開隆堂 技術・家庭	開隆堂学習ノート（技術）	技術分野 勝然 達雄 家庭分野 大野 更子	週2時間 年70時間

## 1 教科目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 の め あ て
	評 価 の 方 法
知識及び技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 ワークシート、ペーパーテスト（定期考査等）、実習及び製作品、実技テスト
思考力、判断力、表現力等	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ノート・ファイル等、レポート、授業観察、製作品（製作過程含）、定期考査
学びに向かう力、人間性等	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 授業観察、自己評価表、レポート

## 3 学習計画

【技術分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	『材料と加工の技術』 1 生活や社会を支える材料と加工の技術	2	・材料や加工の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組みを知る	1 学期 期末考査 9月10日 (金) 13日 (月)
5	2 材料と加工の技術による問題の解決	2	・問題の発見と課題設定をする。	
6	製作に必要な図	6	・成形方法の構想と設計の具体化を図る。	
7,8	①構造、②図のかき方	6	・製作に必要な図を書く	
	③構想まとめ	7	・安全・適切な製作や検査・点検	
	安全・適切な製作、検査・点検	7	・設計を具体化する。	
9,10	①けがき、②切断、③切削	10	・評価、改善および修正を行う。	
11,12	④組み立て、⑤表面仕上げ	10	・安全・適切な製作や検査・点検	
	3, 社会の発展と技術	1	・設計を具体化する。	
		1	・評価、改善および修正を行う	
1	『情報の技術』 1,情報とわたしたちの生活	3	・生活や社会、環境との関わりを知る	学年末 考査 2月9日 (水) 10日 (木)
2	2,情報通信ネットワークの利用	3	・技術の評価、改善を行う	
3	3,情報通信ネットワークと情報セキュリティ	2	・情報の表現の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組みを知る	
	4,情報モラルと知的財産	1	・技術に込められた問題解決の工夫を行う	

## 【家庭分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	○ガイダンス	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭分野のねらいと概要を知る。</li> <li>・衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用品を工夫する。</li> <li>・衣服の計画的な活用や適切な選択ができるようにする。</li> <li>・衣服の素材に適した手入れについて理解する。</li> <li>・布を用いた物の製作を通して、基礎縫いができるようになり、生活を豊かにするための工夫をする。</li> </ul>	1 学期 期末考査 9 月 10 日 (金) 13 日 (月)
5	「B衣食住の生活 衣生活」	6		
6	1 日常着の活用	5		
7	2 日常着の手入れ	12		
8	3 布を用いた物の製作			
9				
10				
11	「C消費生活・環境」			
12	1 家庭生活と消費	2		
1	2 商品の選択と購入	3		
2	3 よりよい消費生活のために	3		
3	4 環境に配慮した消費生活	2		

### 4 授業への取り組み方、準備物

技術・家庭科は、技術分野と家庭分野からなり、それぞれの分野に担当教員がいます。1 学期も 2 学期も技術分野と家庭分野を週 1 時間ずつ行います。実習が続く期間は 2 時間ずつの隔週の授業になります。

普通教室での授業のほかに木工室や被服室などの特別教室での実習があります。怪我を予防し、学習効果を上げるためにも以下のようなことに気をつけてください。

- ・ 特別教室への移動は休み時間中に済ませる。
- ・ 忘れ物をしない。提出物は期限までに提出する。
- ・ ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気付いたことも書き込み、常に振り返りに利用する。
- ・ 道具や機械をいたずらしない。また、使用後はしっかりと片付ける。
- ・ 教え合い、助け合い、わからないことは質問し、授業は常に協力しながら進める。

- 準備物
- |  |
|--|
| 技術：教科書、技・家ノート、ノート(B5サイズ)<br>家庭：教科書、ファイル(A4サイズ) |
|--|

・ 実習内容により、裁縫セット等が必要な場合があります。

### 5 家庭での学習方法

製作実習で習得した加工技術を使った小破修理やボタン付け、ほころび直しなど、授業で学んだ内容を実生活の中で実践することが、学習となります。積極的に家事に参加しましょう。

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時数
開隆堂 技術・家庭	開隆堂学習ノート (技術) (家庭)	技術分野 勝然 達雄 家庭分野 大野 更子	週2時間 年70時間

## 1 教科目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 の め あ へ
	評 価 の 方 法
知識及び技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 ワークシート、ペーパーテスト(定期考査等)、実習及び製作品、実技テスト
思考力、判断力、表現力等	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ノート・ファイル等、レポート、授業観察、製作品(製作過程含)、定期考査
学びに向かう力、人間性等	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 授業観察、自己評価表、レポート

## 3 学習計画 【技術分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	1 「B 生物育成の技術」 わたしたちの生活と生物育成	2	・生物育成の意味とその目的、わたしたちの生活における役割を知る。	1 学期期末考査 9月10日(金) 13日(月)
	2 生物の育成	1	・人間の生活に有効利用されている生物育成のサイクルとその技術を知る。	
5	3 作物の栽培	6	・作物の生育の特性や条件を知り、自分が選択した作物を育てることができる。	
	4 実 習		・家畜や水産生物の習性や飼育・栽培環境に応じた管理技術があることを知る。	
7	5 動物の飼育	1	・生物育成に関する技術が、社会や環境について果たしている役割について理解し適切な評価と活用について考える。	
	6 水産生物の栽培	1	・生活や社会を向上させている情報の技術に気づく。	
8	7 生物育成に関する技術の評価・活用	1		
9	1 「D 情報の技術」 情報とわたしたちの生活	1		
	2 情報通信ネットワークの利用	2	・コンピュータを構成する要素の種類や役割、ネットワークの構成、情報を伝えるしくみ、利用してできることを知る。	
10	3 情報通信ネットワークと情報セキュリティ	2	・情報通信ネットワーク利用時の危険性や安全に利用するためのしくみを知る。	
	4 情報モラルと知的財産	3	・情報を扱う際のルールとマナーなどのモラルの必要性和適切な利用、人権を保護するルール、知的財産を適切に利用する方法について考える。	
11	5 コンピュータと情報処理	2	・コンピュータが情報を処理する仕組みとデジタル化の方法と情報の量、	

1 2 1	6 プログラムによる計測・制御	5	その特徴について知る。 ・身の回りにおける機器がコンピュータによって計測・制御されていることに気づき、基本的なしくみを知る。 ・情報を処理する手順を知り、目的に合った手順を考える。 ・目的に合ったプログラムを作成することができる。	学年末考査 2月9日(水) 10日(木)
2 3	7 ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング	6	・情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 ・問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考える。	

#### 【家庭分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4 5 6 7 8 9 10 11 12	「B 衣食住の生活 食生活」 1 健康と食生活  2 食品の選択と保存  3 地域の食材と食文化 4 調理をしよう	8  8  2 9	・自分の食生活に関心を持ち、健康によい食習慣について考える。 ・栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考える。 ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量を知り、中学生の1日分の献立を考える。 ・食品の品質を見分け、用途に応じて選択できるようにする。  ・地域の食文化について理解する。 ・食品や調理用具等の適切な管理について理解する。 ・基礎的な日常食の調理ができるようにする。	1学期期末考査 9月10日(金) 13日(月)
1 2 3	「B 衣食住の生活 住生活」 1 住まいのはたらき 2 健康で安全な住まい 3 住まいと地域	3 3 2	・家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 ・家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を考える。 ・住まい方が地域に及ぼす影響を知り、住まい方の工夫を考える	学年末考査 2月9日(水) 10日(木)

#### 4 授業への取り組み方、準備物

技術・家庭科は、技術分野と家庭分野からなり、それぞれの分野に担当教員がいます。普通教室での授業のほかに木工室や調理室などの特別教室での実習があります。実習の中では、刃物や火を使うことがあります。怪我を予防し、学習効果を上げるためにも以下のようなことに気を付けるようにしています。

- ・ 特別教室への移動は休み時間中に済ませる。
- ・ 忘れ物をしない。提出物は期限までに提出する。
- ・ ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気付いたことも書き込み、常に振り返りに利用する。
- ・ 道具や機械をいたずらしない。また、使用後はしっかりと片付ける。
- ・ 教え合い、助け合い、わからないことは質問し、授業は常に協力しながら進める。

- 準備物
- |                         |
|-------------------------|
| 技術：教科書，ノート(B5サイズ)，技家ノート |
| 家庭：教科書，技家ノート            |

・実習内容により、エプロンや三角巾などが必要な場合があります。

#### 5 家庭での学習方法

調理実習で習得した調理方法を生かした夕食づくりや、製作実習で習得した加工技術を使った小破修理など、授業で学んだ内容を実生活の中で実践することが、学習となります。積極的に家事に参加しましょう。

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時 数
開隆堂 技術・家庭	なし	技術分野 関 正典 家庭分野 大野 更子	週1時間 年35時間

## 1 教科目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 の め あ て
	評 価 の 方 法
知識及び技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 ワークシート、ペーパーテスト（定期考査等）、実習及び製作品、実技テスト
思考力、判断力、表現力等	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ノート・ファイル等、レポート、授業観察、製作品（製作過程含）、定期考査
学びに向かう力、人間性等	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 授業観察、自己評価表、レポート

## 3 学習計画

【技術分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	『エネルギー変換の技術』 1 わたしたちの生活とエネルギー変換	2	・人間はどのようにエネルギーを利用してきたかを考え、エネルギーの利用にはさまざまな技術が必要なことを知る。	1 学期 期末考査 9 月 10 日 (金) 13 日 (月)
5	2 電気エネルギーの利用	2	・私たちが利用している電源の種類や特徴を知り、どのように使い分ければよいか考える。	
6	3 動力の利用	1	・動力を効率よく伝えるしくみを知り、それぞれの特徴を理解する。	
7	4 エネルギー変換の実際	2	・電気機器の構成と、回路図を用いた表し方を理解する。	
8	5 製作品の構想と設計・製作	3	・エネルギー変換を利用した製作品の構想をまとめ、目的にあった製作品を製作する。	
9				
	『情報の技術』			
10	2-2 計測・制御による問	6	・計測・制御のプログラミングを利用した問	

11	題解決		題解決の手順を知り、問題を見出し、解決策を考え、課題を解決することができる。	
12	・総合実習			
1				
2	3 これからの情報の技術	1.5	・情報の技術をふり返り、技術の見方・考え方について考える。 ・技術の学習をふり返り、技術の見方・考え方について確認する。	学年末考査 2月 9日 (水) 10日 (木)
	技術分野の学習をふり返り、私たちの未来へつなげよう			

#### 【家庭分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	「A 家族・家庭生活」 1	1.5	・自分の成長を振り返ることができる。・幼児の発達と生活の特徴を知る。・幼児の遊びの意義について理解する。	1 学期 期末考査
5	わたしたちと家族	13	・幼児の観察を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫を考える。	9 月 10 日 (金)
6	2 幼児の生活と遊び		・幼児の年齢や発達の特徴を考えて、幼児の遊び道具をつくる。	13 日 (月)
7			・子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。	
8			・家族又は幼児の生活に関心を持ち、課題をもって、家族のよりよいかかわり方や幼児の生活について考える。	学年末考査
9				2 月 9 日 (水)
10				10 日 (木)
11	3 これからのわたしと家族	3		
12				
1				
2				
3				

#### 4 授業への取り組み方、準備物

技術・家庭科は、技術分野と家庭分野からなり、それぞれの分野に担当教員がいます。3年生では、1週間おきに技術分野と家庭分野の授業を実施します。

普通教室での授業のほかにコンピュータ室や被服室などの特別教室での実習があります。怪我を予防し、学習効果を上げるためにも以下のようなことに気を付けるようにしています。

- ・ 特別教室への移動は休み時間中に済ませる。
- ・ 忘れ物をしない。提出物は期限までに提出する。
- ・ ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気付いたことも書き込み、常に振り返りに利用する。
- ・ 道具や機械をいたづらしない。また、使用後はしっかりと片付ける。
- ・ 教え合い、助け合い、わからないことは質問し、授業は常に協力しながら進める。

- 準備物
- |                      |
|----------------------|
| 技術：教科書，ノート(B5 サイズ)   |
| 家庭：教科書，ファイル (A4 サイズ) |

#### 5 家庭での学習方法

授業で学んだ知識を使ってよりよい生活の仕方を考え、実践したり、授業で学んだ内容を実生活の中で実践することが大切です。情報化社会の現代、正しく情報を利用したり発信したりする態度が求められています。